

# ナノ物質の管理に関する検討会 について

平成25年10月  
経済産業省  
化学物質管理課

# ナノ物質の管理に関する検討会の概要

## ➤ 検討会の概要

【目的】最新の科学的知見等を踏まえ、使用実態やライフサイクルを考慮したナノ物質のリスク等を整理し、ナノ物質の適正な管理のあり方を検討する。

➤ 全3回開催 平成23年12月2日、平成24年9月6日、平成25年6月26日

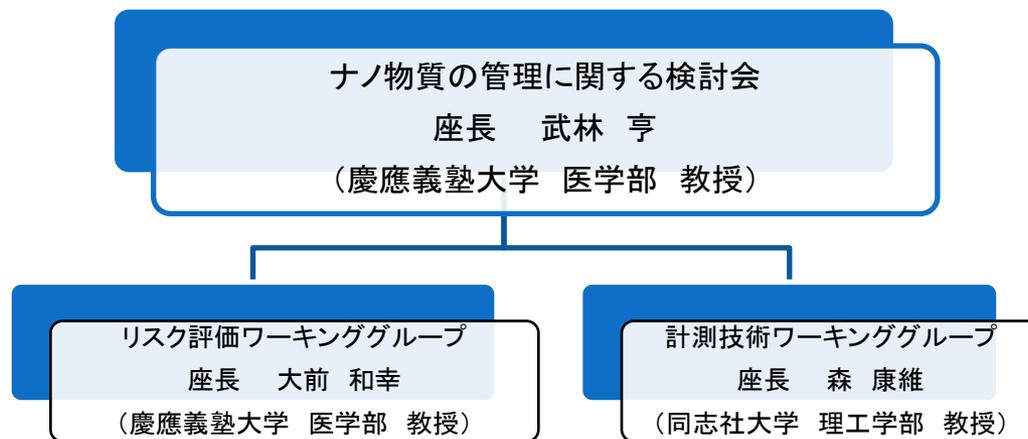
(リスク評価ワーキンググループ 全7回開催)

平成24年1月20日、2月24日、3月28日、6月12日、7月20日、8月22日、平成25年3月29日

(計測技術ワーキンググループ 全5回開催)

平成24年1月24日、3月8日、6月22日、7月24日、平成25年3月14日

## 【検討会・ワーキンググループの体制】



# ナノ物質の管理に関する検討会委員

※敬称略、五十音順

★：座長

有田 芳子	主婦連合会 環境部長
崎田 裕子	ジャーナリスト・環境カウンセラー
庄野 文章	日本化学工業協会 常務理事
★ 武林 亨	慶應義塾大学医学部 教授
辰巳 菊子	日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 常任顧問
田村 雅宣	UIゼンセン同盟 副書記長（政策部門担当）
中西 準子	(独)産業技術総合研究所 フェロー
名古屋 俊士	早稲田大学理工学術院 教授
林 正秀	ナノテクノロジービジネス推進協議会 事務局長補佐 (つくばイノベーションアリーナ ナノテク拠点 (TIA-nano) 推進協議会 事務局長)
平野 靖史郎	(独)国立環境研究所環境リスク研究センター 健康リスク研究室長
広瀬 明彦	国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター 総合評価研究室長
福島 昭治	中央労働災害防止協会日本バイオアッセイ研究センター 所長
藤本 俊幸	(独)産業技術総合研究所計測標準研究部門 副研究部門長兼ナノ材料計測科長
森 康維	同志社大学理工学部化学システム創成工学科 教授
山本 喜久治	日本化学エネルギー産業労働組合連合会 J E C 総研代表
吉澤 剛	大阪大学大学院医学系研究科 准教授

オブザーバー：内閣府、厚生労働省、環境省 等

# ワーキンググループの検討概要(平成24年1月～平成25年3月)

## ➤ リスク評価ワーキンググループの概要

【目的】 ナノ物質を使用した工業製品のリスクについてケーススタディ等を行う。

### 【内容】

ナノ物質を含有する一般消費者製品のリスクについてのケーススタディを実施し、消費者製品からのナノ物質暴露について検討を行った。具体的には主要4製品として、①自動車タイヤ(シリカ、カーボンブラック)、②トナー(シリカ、二酸化チタン)、③塗料(シリカ、二酸化チタン)、④抗菌消臭スプレー(ナノ銀)

## ➤ 計測技術ワーキンググループの概要

【目的】 ナノ物質の適正管理のために、現状利用できるナノ物質の計測技術を整理し、ナノ物質のライフサイクルの各段階での管理対象について、ふさわしい計測技術を検討する。特に、生産管理及び品質保証で使用可能な汎用的な装置の中で、物質のサイズ(大きさ)を計測する装置を中心に整理する。

### 【内容】

(1) ナノ物質の粒子径及び粒子径分布を計測する方法の一覧表を作成し、一部の方法について技術の概要・長所・短所を整理。

(2) 今後の課題は、経済協力開発機構や国際標準化機構(ISO)等での計測方法の標準化を進めるため信頼性の検証試験(ラウンドロビンテスト)等。

## 第3回ナノ物質の管理に関する検討会の検討概要 (平成25年6月26日)

### ➤ 第3回ナノ物質の管理に関する検討会 (平成25年6月26日)

#### 【内容】

リスク評価ワーキンググループが実施したケーススタディ(自動車タイヤ、トナー、塗料、抗菌消臭スプレー)、計測技術ワーキンググループの中間とりまとめ、ナノ安全に係る国際動向を踏まえ、検討会における今後の方針についてとりまとめた。

- ナノ物質の開発・普及状況、暴露状況の把握に努める。
- 事業者の自主管理による安全対策を着実に実施する。
- ナノ物質の有害性を迅速かつ効率的に評価できる評価方法を確立する。
- ナノ物質の計測技術については、実用的な計測方法の確立に努めるとともに、国際標準化を進めることが重要。